

## I 研究の概要

### 学習指導要領

知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育む

- ・ 「何のために学ぶのか」という教科等を学ぶ意義を学ぶ
- ・ 資質・能力を三つの柱に整理し、教育課程全体を通して育成

### 当所のモットー

『やる気をおこそう  
なせばなる  
継続は力なり』

【体験活動】  
・ 野外活動・自然観察  
・ 文化創作活動  
・ レクリエーション  
豊かな心とたくましく  
「生きる力」を育むための支援

### 県教育振興基本計画

【基本目標】  
『夢や希望を実現し、ともに未来を創る鹿児島の人づくり』  
～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～

### 研究主題

学校と連携・協働した体験活動の在り方Ⅲ  
～「生きる力」を育むための体験活動プログラムの工夫・改善～

### 研究の柱

青少年社会教育施設で行われる自然体験活動は、学校や家庭では得られない貴重な体験となる。実践的な体験活動は参加する児童生徒に新たな視点や技術を提供し、学びを促進すると考えられている。

そこで、当所での受入事業及び主催事業における体験活動を通じた学びによる「生きる力」の変容を検証する。

#### 【受入事業（集団宿泊学習）】

- 児童生徒の「生きる力」を高めるための学校との連携・協働の在り方

#### 【主催事業（悠遊学舎わくわくキャンプ）】

- IKR調査を生かした主催事業における体験活動プログラムの工夫・改善

### 研究の仮説

#### 【仮説1】

受入事業（集団宿泊学習）において、教科と関連付けた活動プログラム（指導案）を活用し、体験活動プログラムの事前指導から事後にいたるまでの連携を図ることで、「生きる力」を育み高めることができるのではないか。

#### 【仮説2】

主催事業（悠遊学舎わくわくキャンプ）において、蓄積してきたIKR調査の結果を生かし、体験活動プログラムへの転換を図ることで、「生きる力」を育み高めることができるのではないか。

## 研究の内容

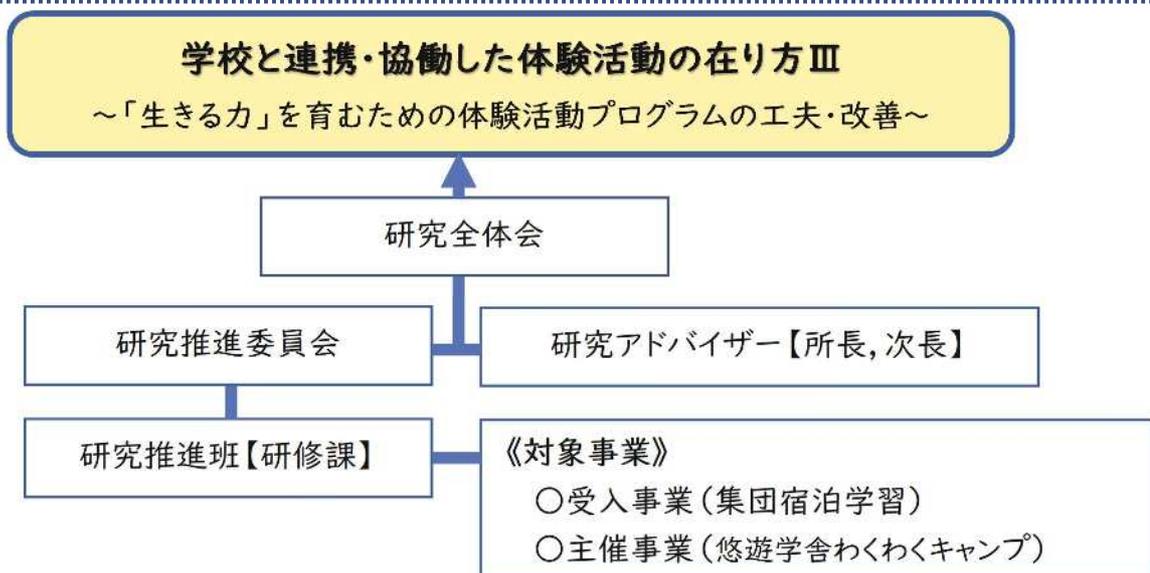
### 【受入事業（集団宿泊学習）】

集団宿泊学習の有用性について、教科と関連付けた活動プログラム(指導案)を活用し、IKR調査にて事前調査から事後調査、一か月後の追跡調査を実施することで、児童生徒の「生きる力」の変容を検証する。

### 【主催事業（悠遊学舎わくわくキャンプ）】

悠遊学舎わくわくキャンプについては、今年度サマーキャンプ（5泊6日）とウインターキャンプ（2泊3日）をシリーズ化した。そこで、年間を通して実施される本事業に対し、これまで蓄積してきたIKR調査結果及び体験活動プログラムの工夫・改善を図ることで、児童生徒の「生きる力」の変容を検証する。

### 【研究組織】



### 【研究の手立て】

《研究推進のための会議等》

- プロジェクト会議（毎月1回）
- 研究推進委員会（毎月1回, 臨時会議）

《受入事業（集団宿泊学習）調査研究協力校》

- 小学校4校
  - ・ 1泊2日（本館泊 2校）
  - ・ 2泊3日（キャンプ場泊 ⇒ 本館泊 2校）

[教科と関連付けた活動プログラム(指導案)の活用]

- ① 野外活動・自然観察
  - 野外協力ゲーム(特別の教科 道徳)
  - 野外炊事(家庭科)
- ② 文化創作活動
  - ベニヤパズル(図画工作)

《主催事業（悠遊学舎わくわくキャンプ）》

- サマーキャンプ（7月23日から7月28日:5泊6日）
- ウィンターキャンプ（12月25日から12月27日:2泊3日）

## II 研究の実際

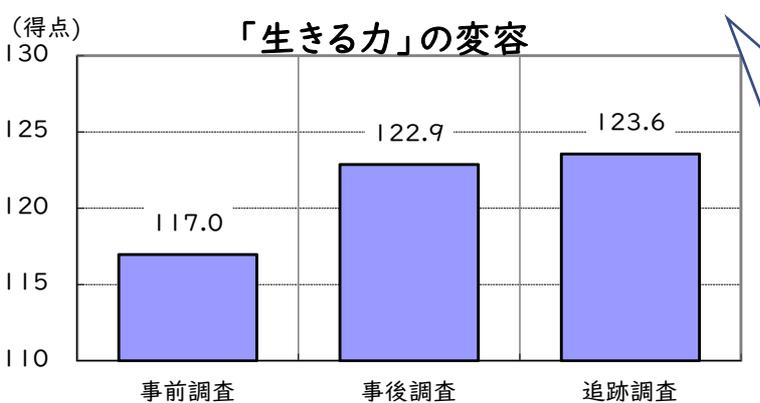
### 【仮説1】

受入事業（集団宿泊学習）において、教科と関連付けた活動プログラム（指導案）を活用し、体験活動プログラムの事前指導から事後にいたるまでの連携を図ることで、「生きる力」を育み高めることができるのではないか。

〔調査研究協力校：4校 児童数合計：299人〕

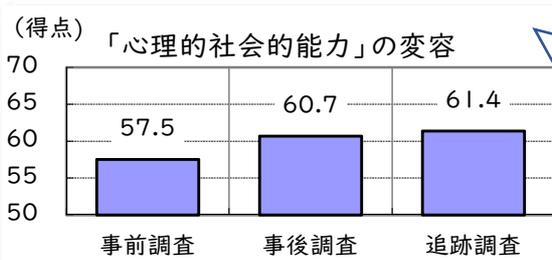
### ☆ 「生きる力」の変容は？

- ◆ 「生きる力」の変容について、事前から事後にかけて、5.9ポイント向上し、有意差が見られた。事後から追跡にかけて、0.7ポイント向上したが、有意差は見られなかった。事前から追跡にかけては、6.6ポイント向上し、その向上に有意差が見られた。



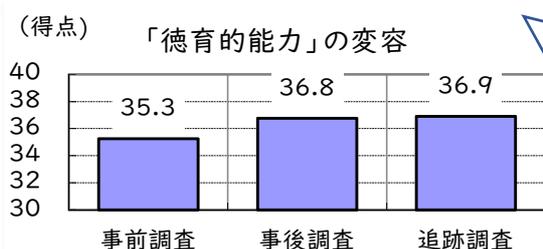
事前指導から集団宿泊学習における体験活動を通して「生きる力」が向上していた。終了後も学校職員による事後指導の充実と継続、児童も集団宿泊学習で学んだり体験したりした成功体験を通して、意識を高め、実践できていたことから追跡調査でも更に向上していた。

- ◆ 「心理的社会的能力」の変容について、事前から事後にかけて 3.2ポイント向上し、有意差が見られた。事後から追跡にかけて、0.7ポイント向上したが、有意差は見られなかった。事前から追跡にかけては、3.9ポイント向上し、その向上に有意差が見られた。



事前学習及び実施時に、集団宿泊学習に対する目標の設定や確認、ルール等の確認をしたことにより、生活の中で生じる様々な課題等に対し、身に付けた知識等をもとに行動したり、対処したりすることのできる力が、事前調査から追跡調査にかけて向上していた。

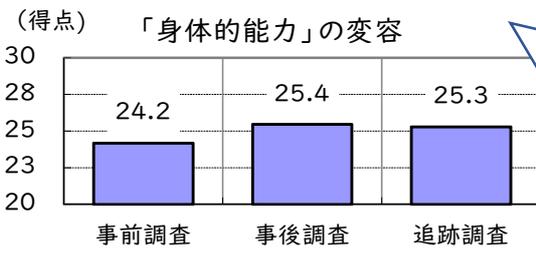
- ◆ 「徳育的能力」の変容について、事前から事後にかけて 1.5ポイント向上し、有意差が見られた。事後から追跡にかけて、0.1ポイント向上したが、有意差は見られなかった。事前から追跡にかけては、1.6ポイント向上し、その向上に有意差が見られた。



事前学習及び実施時に、特に他者との関わりについて重点的に指導したことにより、人としての心情や道徳的な意識を養い自然や崇高なものとの関わり、集団や社会との関わりについて、主体的に関わろうとする力が、事前調査から追跡調査にかけて向上していた。

※「II 研究の実際」に取り上げている項目は、全てIKR調査（P6 参照）に基づく

◆ 「身体的能力」の変容について、事前から事後にかけて 1.2 ポイント向上し、有意差が見られた。事後から追跡にかけて、0.1 ポイント低下し、有意差は見られなかった。事前から追跡にかけては、1.1 ポイント向上し、その向上に有意差が見られた。



事前学習にて活動プログラムの進め方やルールを指導し、実施時には安全指導の徹底を図ったことにより、身体を動かすために必要な基本的な身体的な能力、ストレスに耐えて生を維持し、健康に生きていくことのできる力が、事前調査から追跡調査にかけて向上していた。

☆ 教科と関連付けた活動プログラム(指導案)に関連した質問項目の変容は？

【教科と関連付けた活動プログラムのねらいと実施状況】

○ 野外協カゲーム(特別の教科 道徳 : 調査対象校 4校)

[ねらい]

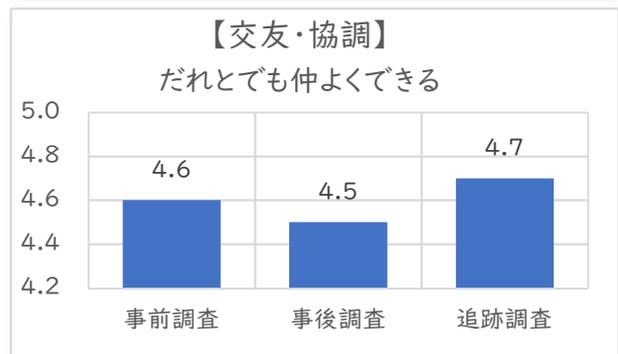
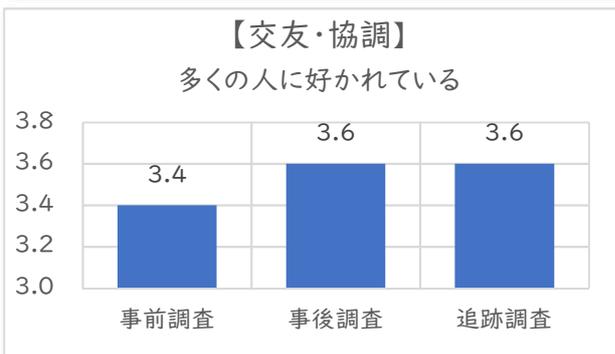
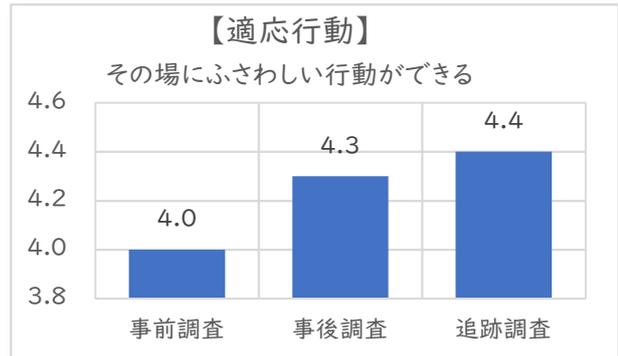
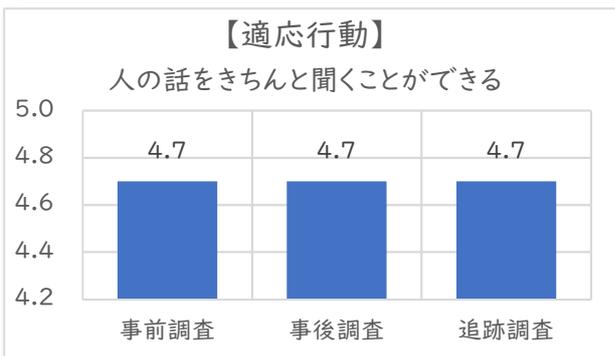
- ・ 友だちを正しく理解し、ともに活動することの喜びに気付き、進んで協力し、助け合おうとする態度を養う。
- ・ 友だち同士で互いに協力して学び合う活動を通して、お互いのよさを認め、支え合おうとする態度を養う。

○ 野外炊事(家庭科:調査対象校 2校)

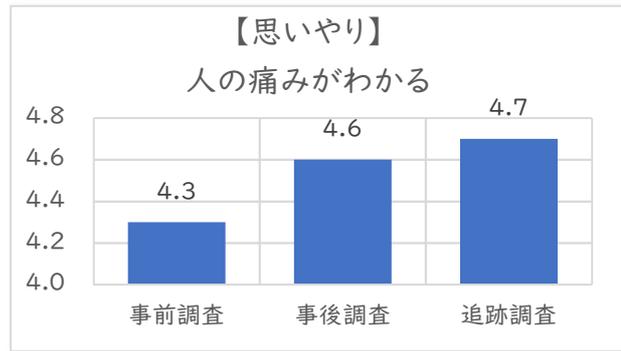
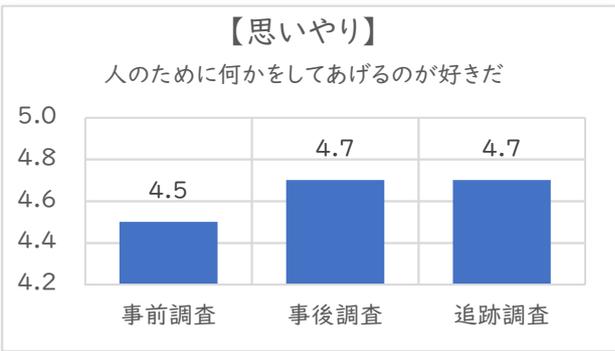
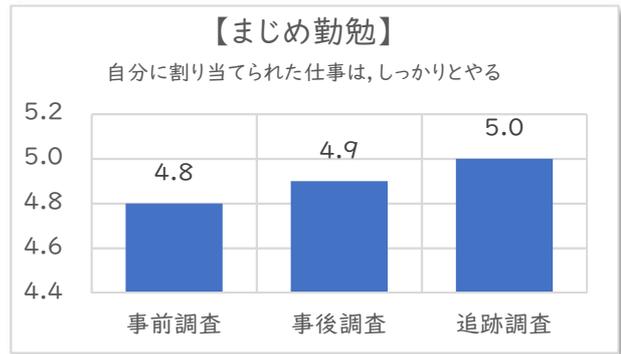
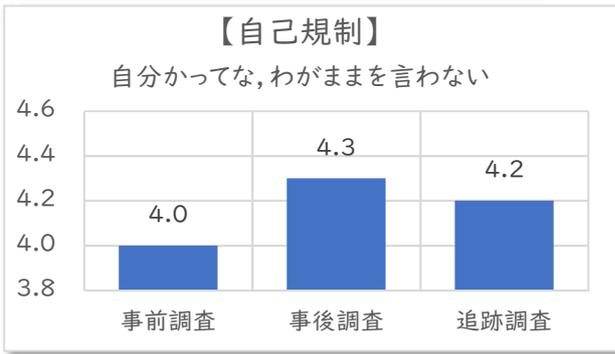
[ねらい]

- ・ 野外炊事を通して、火のおこし方や調理の仕方等について理解し、協力して食事を作る楽しさや食事のありがたさ、大切さに気付く。また、食生活について問題を見だし、よりよくしていこうと工夫することができる。

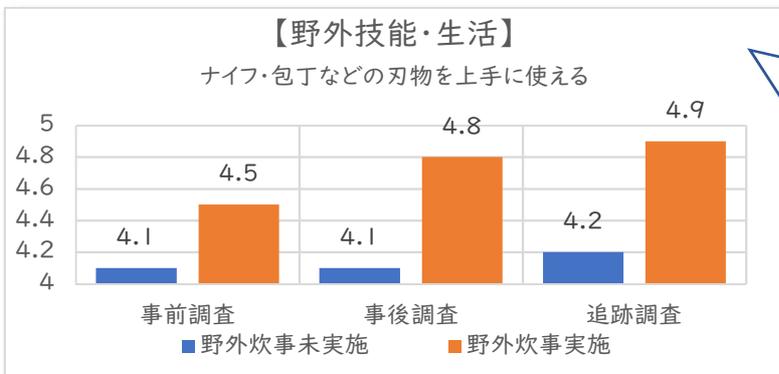
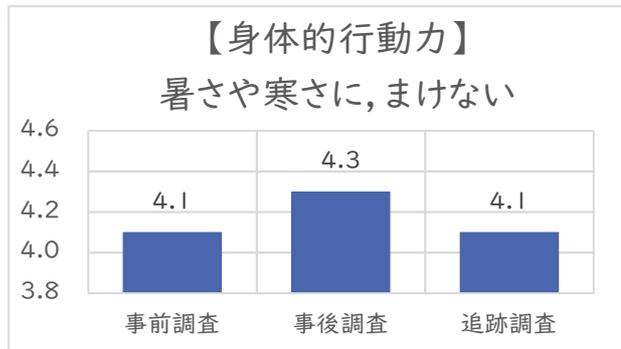
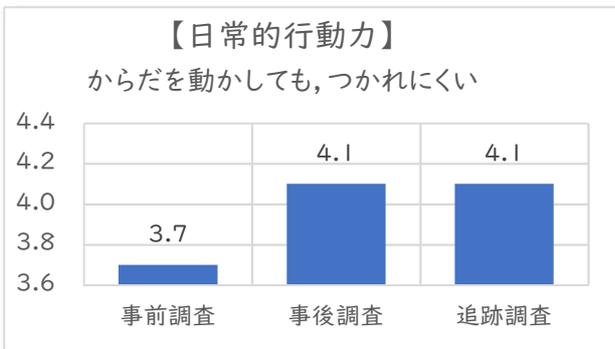
◆ 「心理的社会的能力」の変容



◆ 「徳育的能力」の変容

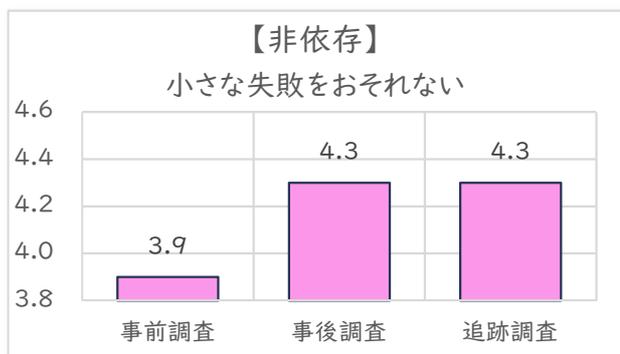
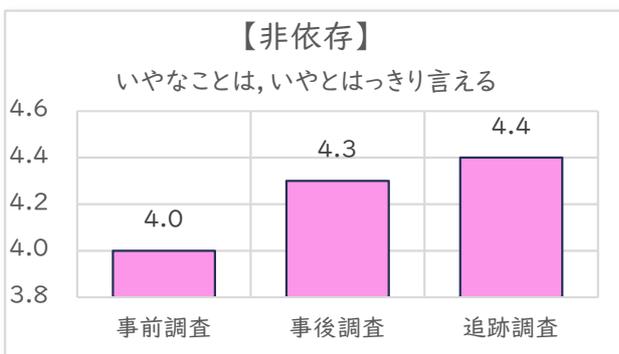
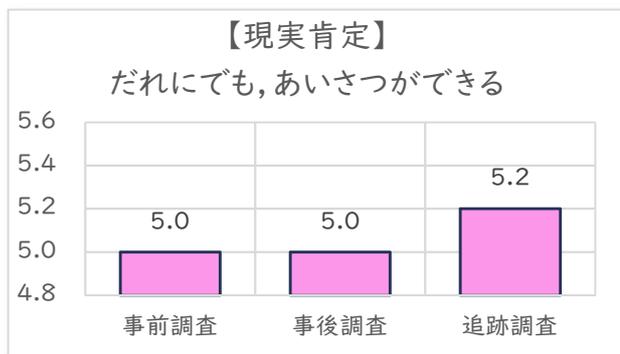
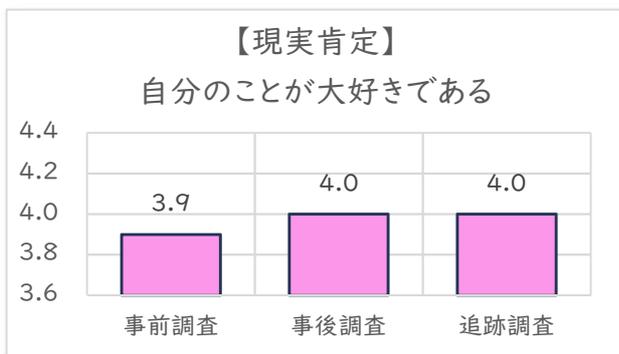


◆ 「身体的能力」の変容



2泊3日(キャンプ場泊 ⇒ 本館泊)で実施した2校については, 野外炊事(カレー作り)を体験したことで, 調査結果に, 明らかな違いが見られた。

◇ 集団宿泊学習を通して、あるがままの現実を素直に受け入れることや自分の意見や考えに自信をもつことに対する変容は？



集団宿泊学習において、事前打合せを行い、その中で、学校の集団宿泊学習に対するねらいを確認し、教科と関連付けた活動プログラムのねらいとの共通点から、所員が学校に出向き、事前学習を実施した。児童、引率者、所員の三者が同じねらいを共有したことにより、集団宿泊学習におけるプログラム活動まで一貫した指導・支援ができて、「生きる力」の向上につながった。

また、事後学習についても、各学校で、児童に活動を通して学んだことを振り返る活動を位置付けたことで、今後の生活において、自分や他者のよさを大事にしたり、困難なことにも挑戦する気持ちをもったりするなど、思いやり、挑戦心といった意識や意欲が持続していたことが分かった。非認知能力に関するアンケート項目については、一定の成果はあったものの、本調査研究においては重点的に検証できていないため、今後、研究の方向性を含めて検討しながら、調査研究を推進していく必要がある。

IKR調査(簡易版)  
とは？

28 項目の質問(6段階評価)から、「心理的社会的能力」・「徳育的能力」・「身体的能力」の3つの能力で「生きる力」を数値化し、測定・分析するものである。質問は、「いやなことは、はっきり言える」といった心理的社会的能力(14項目)、「自分かってな、わがままを言わない」といった徳育的能力(8項目)、「早寝早起きである」といった身体的能力(6項目)の3つの能力で構成されている。回答は、質問項目ごとに「とてもよくあてはまる」から「まったくあてはまらない」の6段階(数字6~1)に○印を付ける。

(事前・事後調査:集団宿泊学習実施前後, 追跡調査:実施一か月後)

※独立行政法人 国立青少年教育振興機構「事業評価に使える『生きる力』の測定・分析ツール」(H22・5)

## 【仮説2】

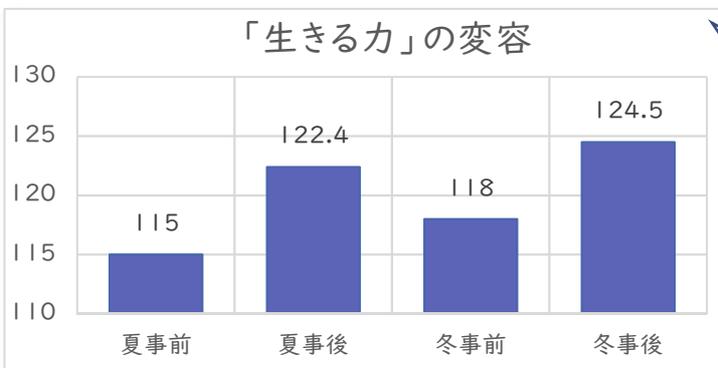
主催事業（悠遊学舎わくわくキャンプ）において、蓄積してきたIKR調査の結果を生かし、体験活動プログラムへの転換を図ることで、「生きる力」を育み高めることができるのではないか。

サマーキャンプ：7月23日から28日まで 5泊6日

ウインターキャンプ：12月25日から27日まで 2泊3日

## ☆ 「生きる力」の変容は？

- ◆ 「生きる力」の変容について、サマーキャンプ事前から事後にかけて、7.4ポイント向上し、ウインターキャンプ事前から事後にかけては、6.5ポイント向上した。事業を通しての事前から事後にかけては、9.5ポイント向上していた。



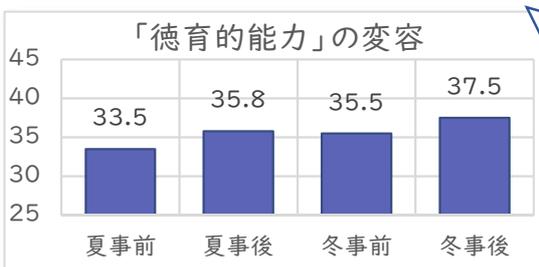
特に、夏から約5か月後に実施した冬の調査においては、わくわくキャンプでの様々な体験活動を通して、夏より数値結果が大きく向上していた。

- ◆ 「心理的社会的能力」の変容については、サマーキャンプ事前から事後にかけて 3.5ポイント向上し、ウインターキャンプ事前から事後にかけて、3.4ポイント向上した。事業を通しての事前から事後にかけては、5.2ポイント向上していた。



人間関係づくりを意識した体験活動プログラムを意図的に組み立てたことで、参加者同士で協議を重ね、相互理解ができた。また、自然体験活動を通して、自分にもできることが増え、できることが増えたことで、自信をもち、参加者や所員の称賛もあり、事前調査から事後調査にかけて向上していた。

- ◆ 「徳育的能力」の変容については、サマーキャンプ事前から事後にかけて 2.3ポイント向上し、ウインターキャンプ事前から事後にかけて、2ポイント向上した。事業を通しての事前から事後にかけては、4ポイント向上していた。



様々な活動の場面で、参加者同士の協議を重ね、より効率的に、満足するためにはどうしたらよいかを考えながら活動することができた。また、自分本位な気持ちが多かった参加者も、長期的な宿泊体験活動を通して、折り合いを付けたり、我慢したりすることができるようになったことで、事前調査から事後調査にかけて向上していた。

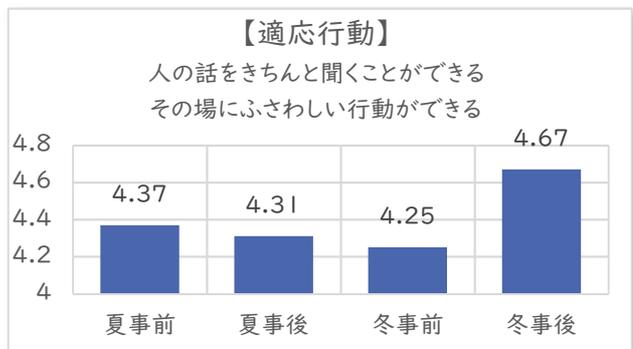
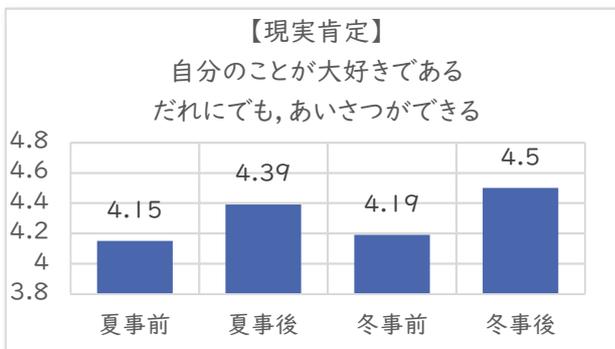
◆ 「身体的能力」の変容については、サマーキャンプ事前から事後にかけて 1.6 ポイント向上し、ウインターキャンプ事前から事後にかけて、1.1 ポイント向上した。事業を通しての事前から事後にかけては、0.3 ポイント向上していた。



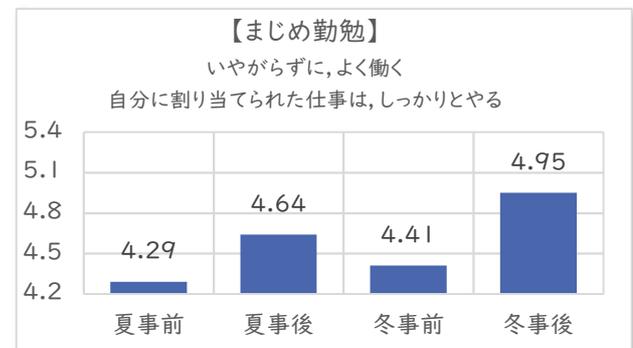
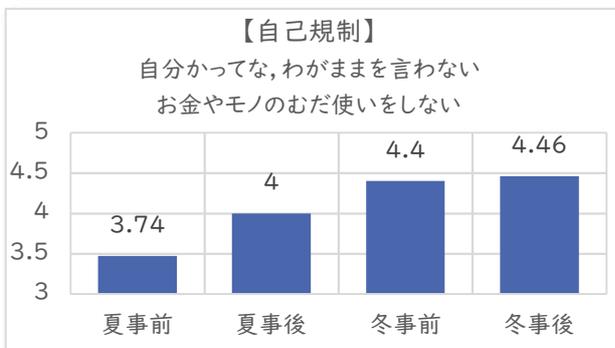
徒歩での長距離移動を伴う体験活動プログラムを組み立てたことで、身体的な負荷をかけたが、全員完歩することができた。一方で、野外炊事等のプログラムを数回組み立てたが、野外技能・生活の向上を図るプログラムを通して、その向上につなげることができなかった。

☆ 各質問項目の変容は？

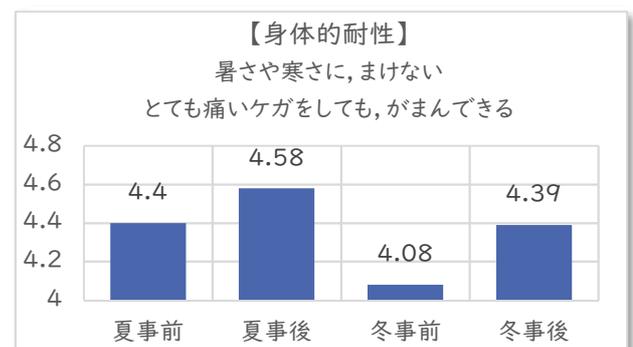
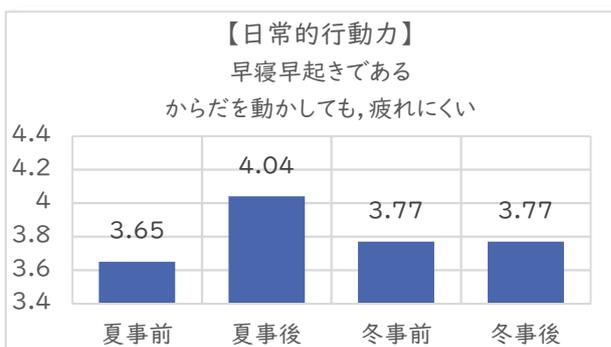
◆ 「心理的社会的能力」の変容



◆ 「徳育的能力」の変容



◆ 「身体的能力」の変容



昨年度の本事業は、「生きる力」を高めるため、異年齢集団活動において、協働することの良さに気付くことのできる姿を設定し、様々な自然体験活動にチャレンジし、体験を通して自己の成長を感じ、自己肯定感を高めるための活動プログラムを組み立てた。サマーキャンプ、ウインターキャンプのいずれにも参加した児童生徒は4人であり、ウインターキャンプ時には、コミュニケーションや協力する姿など、成長した姿がうかがえたため、今年度2つの事業をシリーズ化し、年間を通して検証することとした。

今年度は、「やればできる自分」「絆を深める」「自分にもできるSDGs」の3つのテーマを意識して、活動プログラムを設定した。長期間に渡り事業を展開することから、参加者個人が自分にもできることを増やすことで、自己肯定感の高まりや、長期間一緒に活動することから絆を固いものにすることで協調性をより育むことを目指して、活動プログラムを組み立てた。

具体的には、白銀坂遠行や吉田ハイキングで、最後までやり遂げる忍耐や身体的耐性が向上した。自分たちで企画立案した「あったか鍋作り」では、買い出しから調理、片付けまでやり遂げることで達成感だけでなく、主体性が高まり、「やればできる自分」に気付き、「絆を深める」ことができたことで、自己有用感、自己肯定感の向上につながった。

「悠遊学舎わくわくキャンプ」活動の様子



【Instagram】